

開花期～登熟期の適正管理で収量向上

令和7年8月14日佐渡農業普及指導センター

ここがポイント

○開花期はこまめに暗渠の開閉をする。

○病虫害の発生に要注意、必要に応じて追加防除を実施する。

🔑 キーワード 🔒 開花期、水管理、湿害、干ばつ害、暗渠、紫斑病、カメムシ

1 今、重要な管理

開花期の過度な乾燥は落花、落莢を招きます。

開花期は暗渠を閉栓し、土壌水分の保持に努めましょう。

→ただし、降雨があった場合は直ちに暗渠を開け、地表水が排水されたら、再び暗渠を閉栓します。

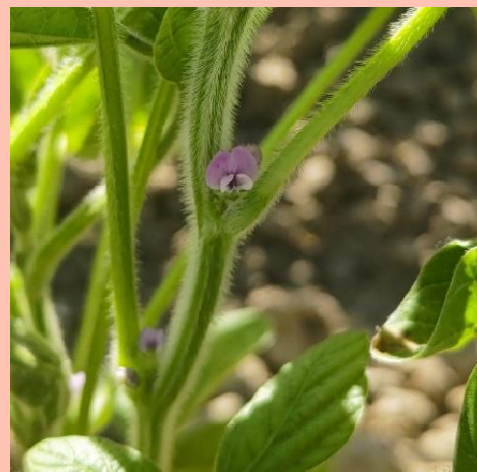
2 登熟期間に必要な管理

(1) 病害について

紫斑粒の発生は、登熟期間の降雨との関係が深く、新潟県では梅雨明けから8月上旬に降雨の多い年に多発する傾向があります。

**→紫斑病の追加防除を検討しましょう。
防除効果が最も高い開花期4週間後に散布。**

昨年、紫斑病による格落ちがあった、もしくは雨が多い年は開花期3週間後、もしくは5週間後に追加防除を行います。



(2) 虫害について

カメムシの防除適期は被害発生の多くなる莢の伸長終期(8月下旬)から子実肥大中期(9月中旬)が中心で、大豆カメムシ類が多発生する場合は、この時期に2回防除する。

→カメムシ防除は開花期4週間後と7週間後を中心に行い、カメムシの発生が多い場合は追加防除を行いましょう。

8/1発行病虫害発生予察情報・予報第6号より

病虫害名	予報内容
紫斑病	量: 並
フタスジヒメハムシ	量: 多い、時期: 早い
ハダニ類	量: やや多い
ウコンノメイガ	量: 少ない
マメシンクイガ	量: 並、時期やや遅い
カメムシ類	量: 多い、時期: 並

カメムシ加害時期	被害の様相
莢伸長期	莢が黄変して落ちる
子実肥大初期	子実肥大が停止する。莢はいつまでも扁平で緑色のまま収穫期まで残ることが多い。
子実肥大中期	吸汁程度に応じて不成型な被害子実となる

3 次年度以降の渇水対策案（農業用水を使ったかん水ができないとき）

(1) 水源について

運搬方法、費用を考えて水源を選ぶ。

(2) 散水方法について(30a規模を想定)

ア 散水チューブを利用したかん水方法

・水道水を使用、散水チューブにより水を散布する。100m巻かん水チューブを使用し、ほ場幅に応じた本数を配置する。

・ローリータンクに給水し、ポンプで送水して散水する。

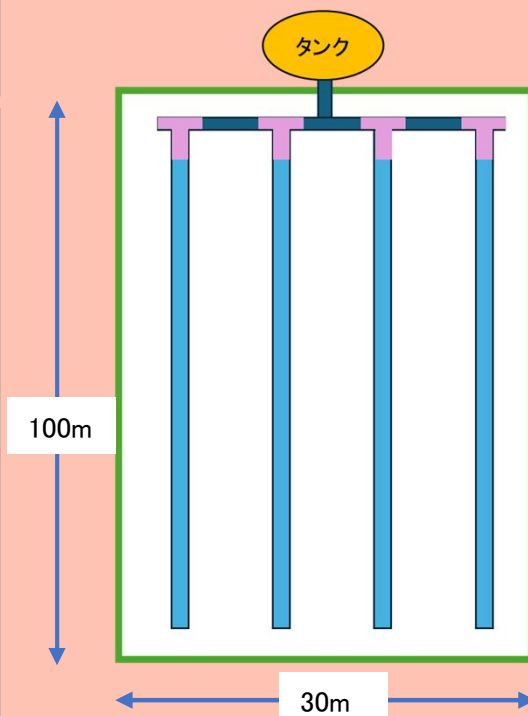
イ 周囲明渠と補助暗渠による水管理

明渠と補助暗渠をつなぎ、明渠に水を巡らせる。

ウ 周囲明渠のみ、かん水する

エ 鉄砲噴口

飛距離17～20mのノズルで畦畔を一周する。



ア かん水チューブの一例

(3) 費用のめやす（予算）

項目	費用(円/30a)			備考
	3－(2) ア	3－(2) イ、ウ	3－(2) エ	
水道料金	1,886	1,886	1,886	口径13mm(家庭用)1000L=1m ³ 50m ³ =50000L 10m ³ まで1886円
減価償却費(7年償却)	21,519	21,519	46,751	エンジンポンプ・ローリータンク・エンジンポンプ・ディスクフィルター・セット動噴等
労務費	9,000	4,500	6,000	時給1500円
消耗品費(2年償却)	41,096	1,099	1,099	導水ホース・ホース接続用の継手・ソケット・ストッパー、フィルター・カップリング金具等
合計(円/30a)	73,501	29,004	58,736	
合計(円/10a)	24,500	9,668	19,579	
労働時間(時間)	3	3	2	
労働人数(人)	2	1	2	

散水チューブは4本を使用した場合の費用
水道水を使用する場合はディスクフィルターは不要
それぞれの方法に対して概算の費用を計算した。